

委員会 レポート

厚生文教常任委員会は、委員会活動として閉会中に行った所管事務調査の内容を、第8回定例会において報告しました。
※内容は要約されています。報告書はホームページでご覧になれます。

最終処分場の受入容量が平成30年度末で満杯になるとの想定から、平成31年度以降のごみ処理について、現在までの検討状況を把握するため、担当課から説明を受けて調査を実施した。

可燃ごみと不燃ごみ（大型を含む）は、十勝環境複合事務組合に加入して広域処理をし、資源ごみは今後も従来どおり町で処理をする。平成30年度には住民説明会・住民周知等を行う予定。

【広域処理の方法】
家庭ごみは従来どおり収集を基本とし、収集委託業者がくりりんセンター（帯広）へ搬入する。一部、現清掃センターを中継して運搬する中継方式（コンテナ方式）を採用する。

【広域処理に向けての新たな経費試算と比較】
組合への加入時負担金が1億900万円、搬送車とコンテナの購入費用に1700万円、パッカー

広域ごみ処理の検討状況について

厚生文教常任委員会 調査報告



平成31年度以降、本町で出た可燃・不燃・大型ごみは「くりりんセンター」（帯広）へ運ばれて処理される

車両の1台増に1200万円を見込んでいる。平成28年度との比較では広域処理のほうが概算で2643万4千円軽減される試算となっている。

【広域処理の検討課題】
中継方式による現清掃センターへの持込量を許容範囲に抑えたいため、家庭ごみについては、ごみステーションの利用促進、事業系のごみについては、委託業者（収集許可業者）の利用促進が検討課題となっている。

また、くりりんセンターへの直接搬入料金が1キロあたり17円であるため、中継方式の場合、そ

の経費分を上乗せした料金改定が必要となる。

【まとめ】
説明を受けて、委員からは「将来に向けて、くりりんセンターを建て替える際の負担についても検討する必要があるのではないか」との意見が出され、担当課からは「町単独の場合でも同じようなサイクルで建て替え・延命の判断をしていくことになるので、検討材料としては拳がなかった」との説明があった。

事業系のごみは、くりりんセンターへの直接搬入が基本となっており、一部中継方式の採用により配慮がなされる予定ではあるが、中小事業者の負担が大きくなると考えられる。

今後の、広域処理の具体的な内容の検討にあたり、町民の負担にならない方法、既存のごみ処理業務の廃止に伴う作業員の雇用の問題などについて、町民が納得できるように、町民の意見を踏まえての検討や説明を確認する必要があることを確認した。

町政に対するもの②（厚生文教常任委員会で調査、検討）

質疑、意見提言等	調査、検討結果
<p>◇運転免許証の返納を勧めるのは家族でも難しい。数年後は車が進化して、対応できる車ができる。</p> <p>◇運転免許証返納を進めるのは、かなり乱暴な部分があるのではないかと。その後どうするのか、時代に逆行している。</p> <p>◇歩けなくなるとの体操等、総合的に考える必要がある。</p> <p>◇高齢になるほど歩かなくなる。運転免許証の返納は全国の問題である。清水町に合った対応を検討していったらいい。</p> <p>◇清水町で車がなくなったらどうなるのか。車を運転できなくなると、コンサルの話では、カップラーメンの世界になり、最後は栄養失調になる。今後は総合的に健康のケアをすることが大事になる。</p>	<p>高齢者の運転免許証返納は本人の自覚が必要で難しい問題であるが、返納者に対するタクシー乗車券助成等の支援が行われており、議会としても健康面を含めた本町にふさわしい支援の取り組みを研究していきたい。</p>
<p>議会として、医療経費の削減はできるのか。広域として考えられるか。</p>	<p>医療費の直接的な削減はできないが、予防医療や後発医薬品の利用拡大等により抑制に努めており、国民健康保険については、財政基盤の安定化などの目的で平成30年4月に市町村から北海道の運営に広域化が図られる。</p>



昨年の意見・提言等で執行側へ対応を求めた項目の検証結果

平成28年 意見・提言等	平成28年調査、検討結果	平成29年検証結果
<p>◇（旧羽帯小学校について）水の問題は、ともに園が使っているのが問題ない。トタンが剥がれて危険というのなら、街の中でもあちこちにある。なぜ今すぐ危険だからと壊されるのか分からない。誰が解体しなければならぬとの判断をしたのか。</p> <p>◇以前、旧羽帯小学校校舎を使いたいという人がいた。町の施設はいきなり解体するのではなく、借りたい人がいるかどうか、公示期間を設ける必要があるのではないかと。町の共有財産であり、地域や町内会の判断だけでは決められない。</p>	<p>公共施設の解体等については、地域を含めた町民への説明責任を果たし、再利用の可能性を含め、透明度を高めた処理に努めるよう執行側へ伝える。</p>	<p>旧羽帯小学校の解体後は賃貸施設の事例はないが、公共施設の解体等に際しては、十分な説明を行い、透明性のある処理に努めている状況である。</p>
<p>◇過去には移動図書もあり、児童生徒に本を提供していた。立派な施設なので、利用者を増やすように努力してほしい。提案として、郡部の公民館に日割りで行き、本を身近にして利用を増やしてほしい。</p> <p>◇図書館を利用して、活用することを考えていただきたい。</p>	<p>本町の図書館は十勝管内でも上位の蔵書数であり、図書館利用の一層の拡大を目指して取り組むよう執行側へ伝える。</p>	<p>既定予算の中で内容を工夫して取り組んでおり、少子化や台風災害があつて利用は伸びていないが、引き続き図書館利用の拡大に向けて努力している。</p>
<p>◇農業問題のクラスターは、清水町としてどこまでやろうとしているのか。</p> <p>◇芽室町はGPSを使ったトラクター作業をやっている。農業人口が減っていく中、もっと取り組んだほうがいいのではないかと。</p>	<p>畜産クラスター事業は本町でも協議会を組織して対応しているが、生産者の要望に添うように協議会で精査して進めてほしい旨、執行側へ伝える。</p>	<p>清水町地域畜産振興クラスター協議会において農業者の要望を聴取し、農業機械導入等の畜産クラスター事業に取り組んでいる。</p>

議会報告会と町民との意見交換会へのご出席並びに貴重なご意見をお寄せいただきありがとうございました。

臨時議会 DIGEST

第7回臨時会
【会期：8月23日】

第7回臨時会では、専決処分承認、一般会計補正予算、工事請負契約の締結2件の審議を行い、原案のとおり承認・可決しました。

工事請負契約の締結

- 御影12号道路（平和橋）災害復旧工事
【契約金額】176,245,200円
【契約の相手方】田村建設株式会社
- 平成29年度排水路災害復旧工事その13（中野1）
【契約金額】85,748,760円
【契約の相手方】清水開発工業株式会社

一般会計補正予算と 工事請負契約の締結2件を可決

平成29年度 補正予算

一般会計 2,107万円増
(4・5回目の補正) 総額82億9,508万円

一般会計の主な補正(歳出)

- ◇円山・石山導水路測量調査設計委託料（災害費） 1,860万円の増額
- ◇円山調整池機械設備診断委託料（災害費） 83万円の増額
- ◇町営育成牧場業務委託料（3件） 421万円の増額
- ◇清水小学校プール維持管理費（開館期間1か月延長） 127万円の増額